
特別寄稿

田口先生との17年間

下村 雅昭※

私は平成元年4月に京都女子大学に専任講師として赴任してきた。そのころは大学も大変なエネルギーを充満させており、それがあちこちで噴出していた印象がある。田口先生はその代表的な噴火口であったと思う。合同教授会が定期的開催されている時代であったので、私は全学150名を越える先生方の前で新任としての紹介をされた。その頃は学長が不在で、代行の教授が議長となっていた。毎回の教授会では大学の運営、教授会のあり方等が熱っぽく議論されていた。特に良く発言される先生は嫌でも目に付き覚えてしまう。背が高く欧米の雰囲気をもった先生、胸をはって穏やかな口調だが辛辣な批評をする先生、坊主頭でドスの利いた声を響かせる先生、そして赤シャツを腕まくりして眼光するどい怖い先生などであった。各先生の名前が謝名堂先生、大國先生、高橋先生そして田口先生と分かるまで1ヶ月とかからなかった。

田口先生とお話をさせていただくようになったのはいつ頃からなのだろう？実ははっきりとは思い出せないのである。しかしそれほど親しくない私に対して、研究領域や目指すべき方向について、まっすぐ目をみて単刀直入に切り出されたことは良く覚えている。私は一般教育科目の保健体育学教室、田口先生は自然科学教室と比較的交流の深い所属であったこともある。今になってはよく分かるのだが、田口先生は若い教師に対してあれこれと考えて接して下さるのであり、私もその一人であったのだ。

間もなく一般教育の改組が話題となってきた。この頃から私は田口先生の部屋へしょっちゅう入り浸っていた。一般教育科目、教養教育などに大変興味を示していた私は、関連科目のなかでも改革の理念について議論をしてくれる相手を欲しがっていた。大変生意気な30歳で、私自身の中にも噴出限界のエネルギーが存在していた。そんな私に対して間髪を入れず田口先生は「一般教育学会」の入会書類を届けてくださった。このあたりから大学は混乱期に入り、教授会がまともに機能しなく

なっていた。若い教師はどの意見に従うべきか右往左往し、ある者は洞ヶ峠をきめこみ、ある者は私にも意見を差し控えるよう涙ながらに訴えた。そんななかでも一般教育の改革は議論が進み、田口先生や大國先生にはいろんな考えを目の当たりに示していただいていた。何故私は田口先生をはじめ、先述の先生方について回るようになったのか。この当時、一般教育科目の改組・解体が本来の目的ではなく、四年一貫教育を目指した大学改革が必要なのであると主張されていた先生は殆ど居なかった。私自身も未だに十分理解は出来ていないと思う。だからこそ一緒に行動させてもらい勉強したかったのである。教授会は教員会議へと形を変えざるを得なくなり、田口先生はその先頭に立たれた。この時の様子は私ごときが語れるものではない。恐らく本特集号に、先生自らが執筆いただけたと思う。或いは、この時のことこそ、いろんな方に直接田口先生からお話を聞いていただきたいと思っている。

その後、私と田口先生は食物栄養学科へ移籍し、更に新設の生活福祉学科に現在所属している。そのような過程を経る中でも、田口先生の生き様から伝わってくることは「大学っていったい何をする所なんだ?」「教育ってなんだ?」「研究することってなんだ?」このような課題に対する絶え間ない研鑽である。私は何事に対しても臆病で、余裕がない。ついつい目の前の仕事をやっつけてしまうことに終始してしまう。そんなとき、教育・研究に対する理念などとはほど遠い不様な行動をとってしまう。当然のことながら田口先生はそれを見逃さない。「悪いことはしかる、いいことは誉める」がはっきりしている。従って私は叱られることのほうが圧倒的に多い。田口先生の体調が優れないときは必ずといっていいほど、私の不始末が原因となっている気がする。この辺に関しては田口先生ご本人は当然のこと、ご家族や田口先生を頼りにされていらっしゃる先生方にも大変申し訳なく思っている。この場をお借りして謝罪しておきたい。

謝名堂先生、大國先生が定年退職なさり、とうとう田口先生もその年齢になられたわけである。まさに京都女

※生活福祉学科 助教授

子大学が岐路に立たされている。このように感じるのは私だけでは無いはずだ。明らかに一つの時代が終わろうとしている。社会全体が大変不安定な状況であるが、本学はまさにその縮図であると感じている。少なくともこの17年間はそうであったと思う。このような不安・焦燥を改善させるためには、ますます田口先生のアドバイスが必要だと痛感している。アドバイザーとはこういうことを指すのか。

米春から多くの教職員が田口先生にご厚誼賜りたく、手ぐすねをひいている状況であろう。いままであまり田口先生とお話をされていなかった人も是非一緒にお伺いしてみてもどうかと思う。

だってもう赤シャツは着ておられないし、腕まくりはされていないはずですから。